

自分自身の
創造と思いやり

最近の授業風景の番組を見ると、授業中に教室が騒がしくなるなどしています。これは私にはとても考えられなかったことです。そこで、成章中ではどうか伺ったところ「全校生徒が集まる集会などでもむだ話ひとつすることなく、真剣に話を聞いて、明るく素直な生徒たちだ」ということです。ただ、成章中の生徒は他人に言われたことには素直に取り組むのですが、自ら進んで問題に取り組むという姿勢や自己主張をするなどという点には欠けているみたいです。

これは、ある意味では地域性ともいえるのですが、ひとつの小学



忙しい中、取材に応じてくれた松本校長先生

校から中学校へと進むことから、幼いころからお互いのことを知っていて、自分自身を語らなくても分かり合えるからなのでしょう。また、知らず知らずに自分のイメージをつくりあげてしまい、それに安住しているようです。例えば一度「おとなしい子」になってしまえば、なかなかその殻を破ることはできないみたいです。

校長先生は、新学期には「新しい自分の発見―新しい自分づくりを目指す」ということを話されるそうです。これは大人になっても大事なことだと感じました。

また、「人の心の痛みの分かる人間」になって欲しいと考えておられます。成章中だけに限りませんが、子供たちは、家庭では自分の部屋を持っていて「個室」にこもり、自分の世界で暮らしているようなどころがあります。他人と話したくないと思えば個室にこもればよいのです。しかし、学校生活では個室にこもるというわけにはいきません。そういう意味で中学生は学校生活での人との関わり合いに疲れているのかもしれない。

こういうことがあったそうです。通学路には米代川にかかる橋があります。冬は風雪が吹き荒れるので橋に雪除けがされています。P

TAの集まりがあったときに父兄のお一人が校長先生に「橋の雪囲いが壊されたわけですね」と思いますが、一言話して「あれ」とのことでした。そこで、集会のときにこう話されました。「雪囲いを壊すということは、せっかく雪囲いをした人の労力を無にしてしまうことです。また、雪囲いをした人が壊されているのを見たらどう思うのか、考えてみてください。自分自身をしつかり持ち、そして他人の嫌がることとはしない。それが人の心の痛みの分かる人間ということですよ。」

このことは、何も中学生だけではなく、社会の人間関係の基本になることだと思いました。

後輩たちへ

ここ数年、中学生の非行やいじめが問題になっています。しかし、中学生の事件は単に中学校だけの問題ではなく、社会全体の問題です。自分には関係がないという「無関心」が一番よくないのです。子供たちが危険なことをしていたら注意すべきです。子供たちに関心を持ち、地域の中で育てていくという気持ちが大切だと心に命じたいと思います。

幸いに、校長先生のお話からは、成章中学校には家庭的な雰囲気があるように感じられました。優等生でいる必要はありません。伸び伸びと自分を表現し、スローガンにあるように、新たな第一歩を歩みだしてください。

最後になりましたが、松本校長先生、お忙しい中、快く取材に応じてくださって本当にありがとうございました。



取材する石井リポーター